

平成 29 年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

平成 29 年 8 月 18 日
舢倉診療所長 西川 諒

平成 29 年度の舢倉島夏期総合診療は石川県、輪島市の共催により平成 29 年 8 月 5 日（土）、6 日（日）の両日にわたり実施されました。関係者の方々のご尽力により予定通りの日程で無事に終了しました。お力添えをいただいた関係者の皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、眼科、内科、特定健診、大腸癌検診、前立腺癌検診」診療を実施し、もって舢倉島住民の保健医療の向上を図る。

2. 日程

平成 29 年 8 月 5 日（土）午後 1 時～午後 5 時

8 月 6 日（日）午前 9 時～正午（眼科は午前 11 時～午後 2 時）

3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山 1-4 舢倉島総合開発センター

耳鼻咽喉科：コンピュータ室

眼科：事務室

内科：診察室、保育室

特定健診：保育室

大腸癌検診：受付ロビー

前立腺癌検診：受付ロビー、保育室

受付：玄関ロビー

4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴 医師（小森耳鼻咽喉科医院）
	瀧上 美江子 看護師（県立中央病院）
眼科	山本 ひろみ 医師（やまもと眼科クリニック）
	澤田 景子 看護師（県立中央病院）
内科	堀田 祐紀 医師（心臓血管センター金沢循環器病院）
	高川 真伍 医師（市立輪島病院）
	濱田 崇志 医師（飛騨市民病院）
	白梅 明宏 看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
特定健診	濱高 康夫 臨床検査技師（市立輪島病院）
	久堂 智恵子 臨床検査技師（市立輪島病院）
	北川 めぐみ 管理栄養士（市立輪島病院）
	河崎 国幸 参事（市立輪島病院）
血圧測定	金城 善也 看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
	窪田 正代 看護師（市立輪島病院）
受付	伊東 義修 課長補佐（県庁地域医療推進室）
	小林 祐樹 主事（県庁地域医療推進室）
	川口 美咲 主事（県庁地域医療推進室）
診療補助	須田 拓也 医師（県立中央病院）
	寺島 良 医師（県立中央病院）
	富木医療器株式会社、株式会社イデックより合計 3 名

5. 受診状況と問題点・今後の改善案

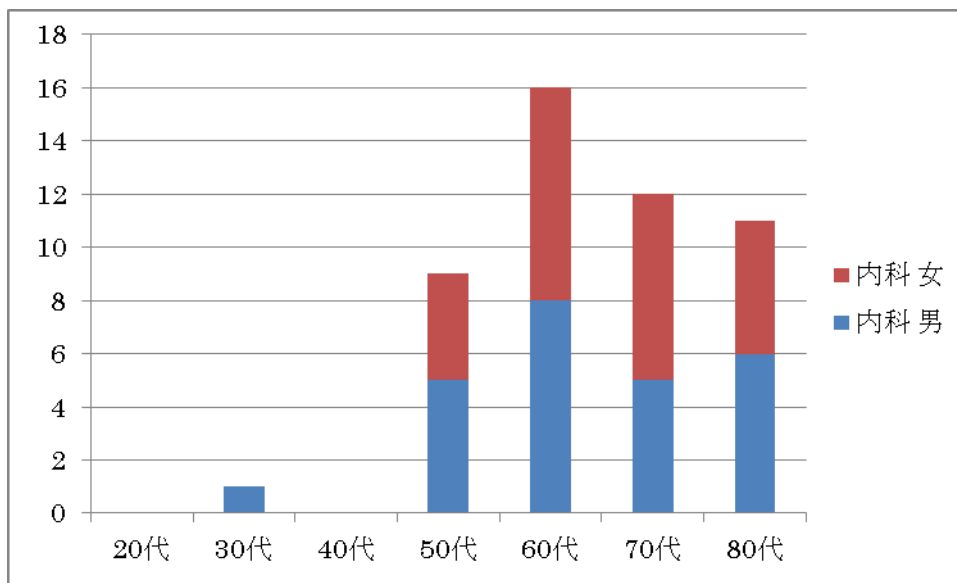
平成 29 年度は、のべ人数 154 名、実人数 61 名の方が受診された。各科の受診件数を下記に示す。

	内科	耳鼻科	眼科	特定健診	大腸癌 検診	整形外科	前立腺癌 検診	合計
29 年度	49	13	14	33	26	none	19	154
28 年度	41	21	13	34	25	none	16	150
27 年度	52	20	19	38	28	31	20	208
26 年度	40	20	16	28	16	32	None	152
25 年度	46	27	14	17	None	35	None	139
24 年度	46	23	8	18	None	None	None	95
23 年度	50	23	12	18	None	27	None	140
22 年度	46	28	25	13	None	33	None	145

※ 眼科は 8 月 6 日のみ

全体の傾向としてはのべ受診人数は増加、実人数は減少した（実人数：H28 年度 70 名⇒H29 年度 61 名）。受診人数は耳鼻科と特定健診で減少していたが、そのほかの項目では増加した。実人数の減少にも関わらず、のべ人数が増えたことは総合診療に対する呼びかけや島民の健康意識の向上によると考えられる。実人数や耳鼻科の受診者数が減少した原因としては、島民数自体の減少の影響が大きいと考えられる。昨年大腸癌検診により陽性者が出たことから、島民の大腸癌検診に対する意欲は高く、昨年以上の受診者が得られた。前立腺癌検診の受診者も増加しており、こちらは特定健診や内科での採血時に同時に施行できることの簡便さによるものと考えられる。以下で各科の受診状況について考察する。また、各科の受診状況をグラフにまとめたので参考にされたい。

<内科>

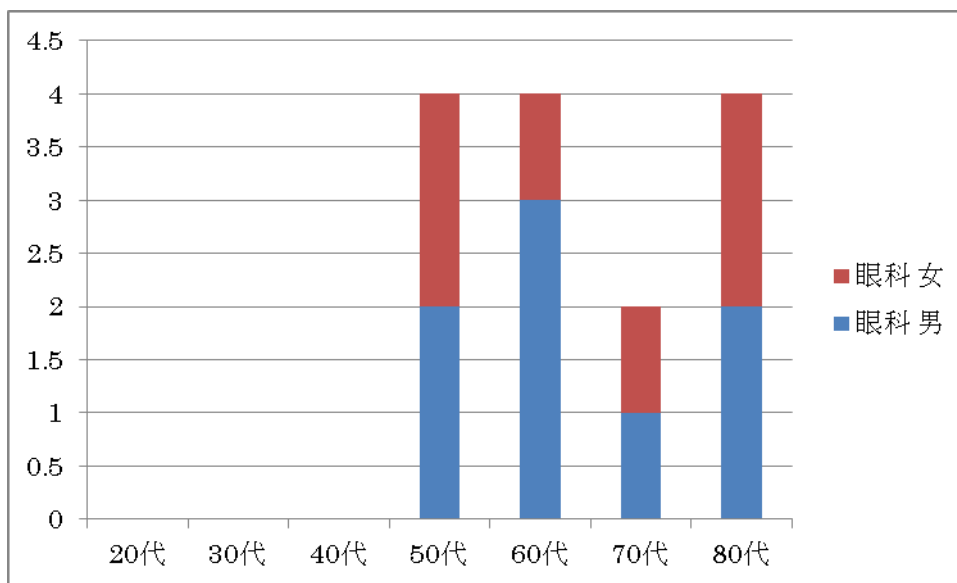


内科は昨年同様 50 歳代以上の年代で高い受診率を示している。今年度受診者数が増えたのは事前に多くの方で胸部レントゲン写真や心電図を施行できていたことにより当日の待ち時間が減少したことや、受診への積極的な呼びかけによると考えられる。30 代と若い世代でも受診者がみられたが、島民は喫煙や飲酒などの生活習慣の乱れが目立ち、若い年代でも健診を行う意義は大きいと考えられる。実際、内科健診にお

いて30代でも治療介入の必要な異常を認めたことから、今後も若い年代から積極的に健診受診を勧めていくべきと考える。

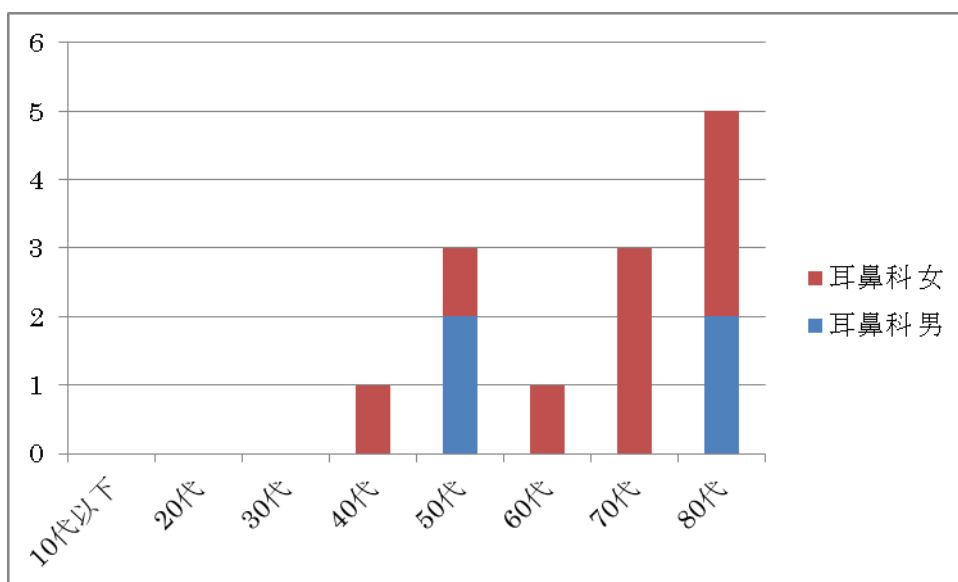
一方、島民の高齢化が進んでおり、心疾患の罹患率は増加している。島での日常診療において積極的に心臓超音波や心疾患に対する注意深い問診を行うことで、異常を少しでも疑う方には積極的に健診での内科受診をすすめた。また代々所長によって受け継がれる島民サマリーに加え、特に専門医の先生に相談したい点に関しては別紙にて提示し、診療の御指導を頂いた。普段専門的な検査を受ける機会の少ない島民にとって年一回の内科健診によって、心疾患が初期の段階で発見されることも多く、今年度も精査が必要な方が認められ、とても有意義な健診であったと考えられる。当診療所では、任期が半年であり島民の経過を一人の医師で追うことが出来ないが、島民一人一人のサマリーを代々の医師が書き足しながら作成しており、今後もサマリーの日々の更新を続けることで、患者情報の正確な引き継ぎとフォローアップを行っていかねばならない。

<眼科>



眼科受診者数は、6日の11時から14時までの間と少ない時間設定であったが、昨年より一人多くの受診者を得られた。しかし事前の調査では21人の受診を予定していたのに対し、実際は14人であり、受診しなかった方が多くみられた。やはり沖休みでないことが、島民の受診の妨げになっているとの声が多かった。眼科疾患を抱える患者や基礎疾患に糖尿病や高血圧を抱えており眼科受診が望ましい患者を事前に抽出し、受診をすすめたが、症状の少ない患者は基礎疾患があっても受診しない傾向があり、今後継続していくためには眼科受診の必要性の高さを島民に認識させることが重要である。

<耳鼻科>

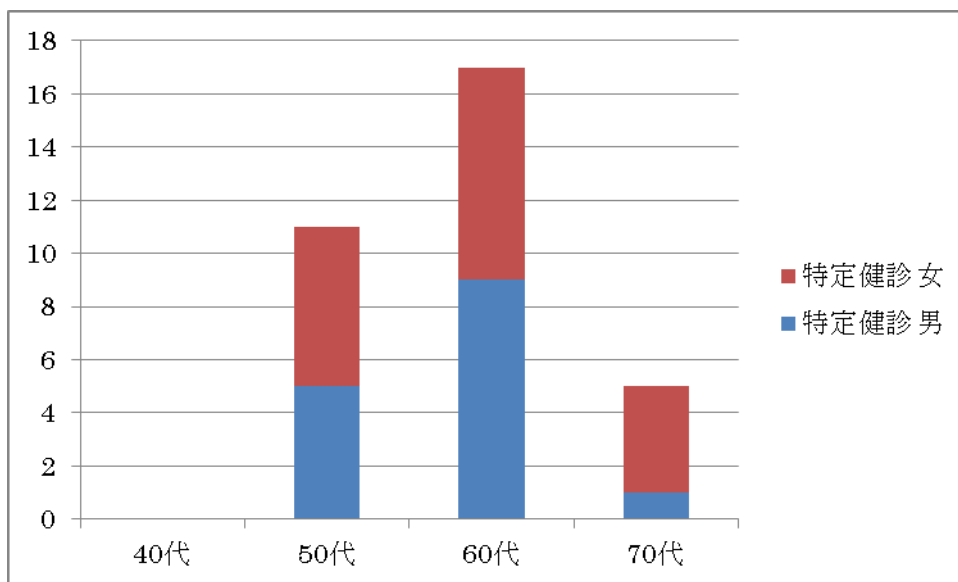


今年度は昨年に比べ受診者の減少がみられた。事前の調査から受診希望者は16人と昨年に比べて少なく、最も島民数（特に海女数）の減少の影響を受けたと考えられる。

昨年同様で女性の受診者が多かった。海女漁という舩倉島特有の背景を反映したものと考えられる。

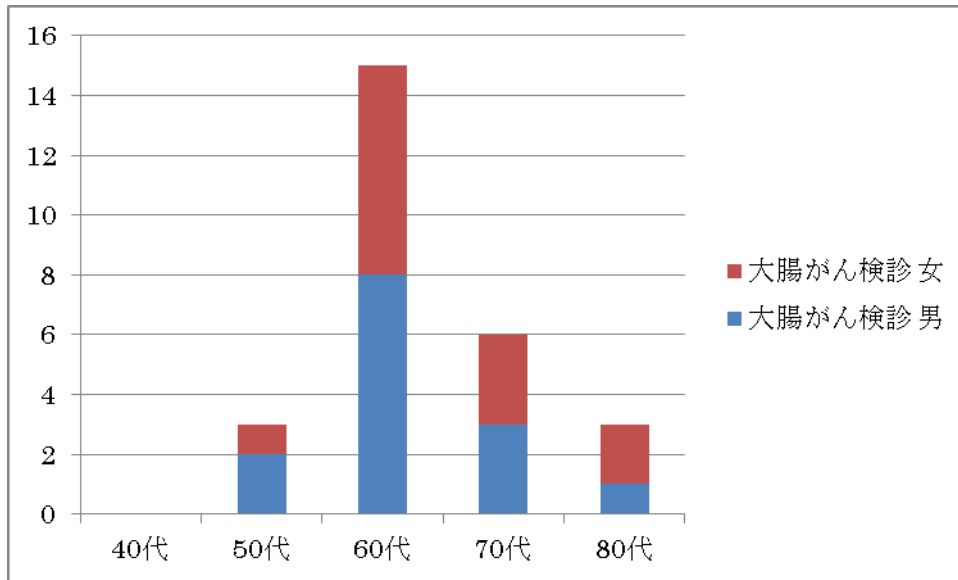
海女は普段から耳鼻科的なトラブルを訴える方が多く健診の必要性は高いが、専門的な診察を受ける機会が少ないことから、有意義な健診とするために積極的な呼びかけを行っていく必要がある。また喫煙者に対しての喉頭癌のスクリーニングが必要であり、男性への受診を促す努力も大切である。

<特定健診>



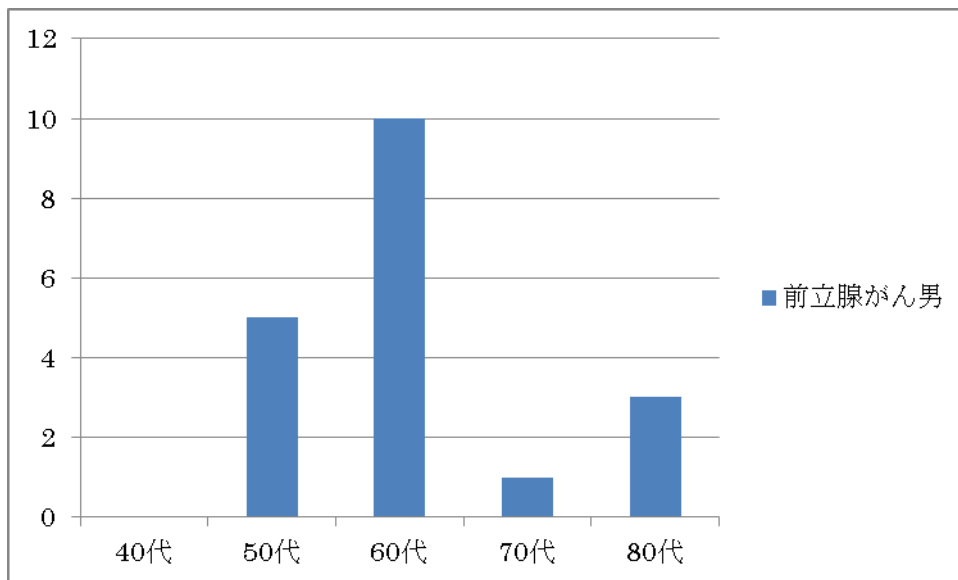
特定健診の受診者数は33名とわずかに減少した。普段通院されていない島民にとっては、年に1回の特定健診は1次予防の機会としては重要であるため、この機会を活用して頂きたいと思う。今後も対象者全員の受診をめざし、島民台帳を参考に各対象者への積極的な呼びかけを続けていって頂きたい。

<大腸癌検診>



昨年に続いて行った便潜血検査による大腸癌検診は26名とわずかに増加した。実人数の減少にも関わらず、増加がみられたのは、便潜血陽性から精密検査へとつながる患者が例年少なからずみられていることから、島民の大腸癌検診への関心が高いからであろう。実際に事前の調査でも大腸癌検診を続けてほしいという声は多かった。2日間にわたって島民自身で便を採取しておく必要があるため手間がかかるが、胃カメラを施行していない現在において、侵襲が少ない検査であり、今後も是非継続して頂きたい。

<前立腺癌検診>



昨年に引き続いてPSAマーカーを用いた前立腺癌検診は19名と受信者数は増加した。特定健診の採血で同時に施行できることもあり簡便なため多数の方が受診されたと考えられる。普段泌尿器科的な診察を受けることが出来ない島民において、近年増加傾向の前立腺癌をスクリーニングすることは極めて重要と思われる。IPSSスコアを同時につけることによって、前立腺肥大症の患者もスクリーニングすることが出来今後も継続していく事が望まれる。

6. 各科診療内容

<内科>

昨年度より引き続き、内科健診は心臓健診として堀田医師に担当して頂いた。島の高齢化および高血圧・糖尿病罹患率の高さより、循環器疾患合併者が多く、専門的視点からの診療がますます重要になってきている。H21年度から実施しているが、毎年大好評であり、今年度は49名と例年に比べても多くの受診があった。実人数が減少していることを考えれば、内科健診の需要は極めて高いと考えられる。濱田医師には堀田医師の診療補助について頂いた。受診希望の島民にはできるだけ事前に胸部レントゲン撮影と心電図記録をしておき、また当日は身長、体重、血圧測定（左右）を施行し、日々の診療と処方内容確認のため、全例島民サマリーを参照頂いた。またサマリーに加え日常診療において特に相談したい点がある方に関しては紙カルテに付箋を貼り、御指導を頂いた。基礎疾患の有無に関わらず全例に心エコー検査を施行し、精査頂いた。また、下肢の血管ドップラー超音波検査も併せて施行して頂いた。

今年度も事前に心電図をとりきれなかった方のための記録場所を内科診察とは別に設けた。昨年同様に整形外科の健診がなかったため、レントゲン撮影室に心電図記録場所を設けることができたが、今後整形外科の健診を行うことがあればまた場所の検討も必要と考えられる。また今年度は高川医師に心電図とレントゲン撮影を行って頂いた（今年度は例年より医師が一人多かったため）が、来年度以降は放射線技師の参加も必要と考えられる。

結果では、異常所見として弁膜症、心肥大、不整脈、下肢虚血などが挙げられる。そのうち、2名の患者でカテーテル検査、他2名の患者でMDCT検査、と精査を必要とする方がいた。不整脈のある方の今後の薬物治療の方針や弁置換術後の方やカテーテル治療を受けた方の治療後のフォローアップなど、専門的視点から治療方針の御指導を頂いた。また、胸部レントゲン異常を指摘された方も一人おられ、精査の方針となった。

<眼科>

昨年度に引き続き、今年度の眼科健診も山本医師に担当して頂いた。昨年度と同様、センター内事務室を暗室として使用し、無散瞳眼底カメラと手持ち眼圧計を借用して頂いた。また、カメラ設置のため富木医療器とニデックの業者の方に来島して頂き、準備から眼底撮影、視力測定までご協力を頂いた。

結果、受診者は14名で、新たに白内障が今回の健診を契機に診断された。普段の診療において、専門的な診察・方針決定が難しい中で、専門医の先生に診察して頂いたことは、受診者・診療所双方にとって非常に有益な事と考えられた。島民の年齢・高血圧・糖尿病有病率を考慮すれば受診者を増やす事で、より大きな成果が期待される。しかし高血圧や糖尿病などの基礎疾患のある方が非常に多いわりに、眼科受診者が少ないことは、健診時間の短さもあるが、基礎疾患を有するが眼科症状の乏しい方の眼科合併症に対する無関心さがあると考えられる。今後同じ条件で健診を続けるにあたって、より受診者を増やし有意義な健診とするには、診療所長の積極的な呼びかけと、眼科健診の重要性の周知が必要である。

<耳鼻咽喉科>

耳鼻咽喉科は昭和58年度から今年度に至るまで毎年総合診療に参加して頂いている小森医師に担当して頂いた。総合診療全般においても様々な面で支えて頂いている。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舄倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤーズ（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、以降、サーファーズイヤーズの進行は止まっているとの事で、島の海女にとって必要不可欠なものとなっている。また耳鼻科健診は喉頭癌検診もかねており、島民の喫煙量は多く、高齢化も進んでいることから、年一回の受診の機会は非常に重要と考えられる。幸いなことに今回の健診では新たな喉頭癌患者は認めなかった。しかし、喫煙量が多いにも関わらず、受診されていない方が多いのも事実である。そもそも島民には耳鼻科は耳と鼻という認識があるように思われ、喉頭癌検診でもあることを、今後周知させて

いくことで、受診率が高まると考えられる。また、笑いにあふれた診療風景から、長年この総合診療に参加して頂いている小森医師と患者間の厚い信頼関係がみられた。事前の調査では小森医師が来られるから受診するという声もあり、小森医師が健診に来て下さることの島民にとっての重要性が専門的医療を超えたところでも伺えた。

13名の受診者で異常所見の内容は、外耳湿疹、外耳道炎、鼻炎、老人性難聴、騒音性難聴、亜鉛欠乏による味覚障害などであった。普段はふれる機会の少ない専門的な視点から今後の治療方針の御指導をして頂いた。また、今年度はオーディオメーターによる聴力検査を行った方が5人おり、診察に役立った。

高齢者や喫煙者はもちろんのこと、島には若い海女もおり、今後は若い世代への健診受診も促し、将来のために、耳栓の使用方法や、有症状時の対応の仕方などを聞く機会としても健診の場を活用して頂くことが、健診をより有意義なものとするために重要であると考えられた。

<特定健診、保健指導（栄養指導）>

昨年度に引き続き、今年度も輪島市の特定健診を舳倉島総合診療の一部として開催した。対象者は国民健康保険、船員保険加入者の40～74歳の方で、実施項目は問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、検尿、血液検査、保健指導（栄養指導）である。市立輪島病院河崎参事、濱高臨床検査技師、久堂臨床検査技師、北川管理栄養師にご協力頂き、保育所を使用し、測定・採血、保健指導を行った。

受診者は女性18名、男性15名であった。昨年同様、特定健診の受診者には普段診療所や病院を定期受診する機会のない方たちもおり、特定健診の意義は大きかったと考えられる。普段健康に心配のない方でも特定健診だけは受診するという方も少なからずみられた。実人数の減少の割に、特定健診の受診者はほぼ横ばいであり、島民の健康意識の向上が感じられた。

昨年同様、健診当日の保健指導を北川管理栄養士に担当して頂き、栄養指導を中心的に御指導いただいた。日常診療で食生活を改善したいと考えているが、どう改善すればよいか分からないという島民の声は非常に多く、昨年度の検査結果や島民サマリーなどを活用し、専用のパンフレットを利用しながらの分かりやすい丁寧な栄養指導は、島民にとって非常に有益であったと考えられる。ぜひ来年以降も栄養指導を継続して取り入れていただきたい。

特定健診では事前を受診票がないという方を抽出し再発行していただいた。例年、受診票や保険証を輪島に置いてきてしまう人が少なからずおられるので今年度も早めから広報を行ったが、やはり再発行が必要な方が数人いた。今年度は大きなトラブルはなかったが、今後も「受診票は住民票のある方の家に届くため、受診の為に必ず持ってきてもらう。保険証とともに一度島で確認し、分かりやすい場所に保管しておく」ということを一人一人に広報する必要がある。

<大腸癌健診>

昨年度に引き続いて大腸癌のスクリーニング検査として便潜血検査を実施した。事前に広報し、希望者を募っての検査であり、便を採取するのに2日間かかること、自分で便を採取することの煩雑さがあるにも関わらず、検査人数は26人と昨年度と同等の人数を確保できた。以前に検診で異常を指摘されて大腸内視鏡検査を定期的に行われている方は受けていないため、大腸癌のスクリーニングをしている人数としては増加傾向であると考えられる。毎年実施していることもあり、受診した26人のうち異常がみつかった方はおられなかった。しかし正常上限の方が1人おられたので下部消化管内視鏡検査を受けて頂く方針となった。それぞれの病院の地域連携を活用することで、診療所から事前に検査予約を取ることが可能であるため患者本人が検査予約の為に離島する必要がなくなった。今後も診療所から予約をとることが島民の負担を減らし、検査へのハードルも下がると考えられる。

以前の検診で大量の海藻摂取で偽陽性となることがわかっており、検体の容器を配る際に海藻の摂取を控えるようアナウンスを行った。島民の大腸癌検診への関心は非常に高く、舳倉島での高齢化・喫煙率の高さ・大腸内視鏡検査受診への敷居の高さを考慮すると、今後も島民全員の大腸癌健診参加を促す働きを

進めていくことが重要である。

<前立腺癌検診>

昨年度に引き続いて PSA マーカーを用いた前立腺癌検診を実施した。特定健診と同時に採血を行える簡便さもあり、受診者は男性だけの対象であるが 19 名を確保することが出来た。その中で癌の疑いがあり精密検査を必要とした人はいなかった。昨年同様 cut off 値を全国的に用いられている 4ng/ml と設定した。1ng/ml 以上の方は今後も PSA 値を follow していく方針とした。

また、問診票で IPSS スコアも記録しており、前立腺肥大症のスクリーニングにも有効であると考えられる。排尿関連の症状を訴えられる島民は多く、そうした人を積極的にスクリーニングし専門医へ紹介するために有用であった。実際、健診で IPSS スコアが高かった人が 6 名 (9 点以上) おり、専門医への受診を勧めた。今後も毎年でなくても良いと思われるが、定期的に続けてほしいと思う。

7. 反省点

1 日目終了後に反省会が行われ、様々な意見が交わされた。以下はその要点とそれに対する所長の私見およびその他の問題点である。来年度以降の実施に役立てて頂ければ幸いである。

① 受付・待合の問題点と対策

昨年同様、開始前より受診者が殺到し、開始直後には案内などで混乱を生じる事も見受けられた。しかし昨年度から使用している診療科ごとの受診予定者リストにより大きな混乱は生じなかった。事前に大半の受診者の心電図、胸部 X 線が施行されていたことも、スムーズな誘導に繋がったと考えられる。特定健診は輪島市が主催するもの、内科健診は県が主催するものであり事前に情報を交換することはなかったとのこと。互いの健診の流れを理解していないことが、混乱を招いた場面もみられ、事前に市と県とに当日の流れを伝えておくことが必要であると考えられた。反省会でも市と県の職員の方から、お互いにもっと事前の情報交換をすべきであったとの声が多かった。実際に来年度以降、どこまで市と県との事前の情報交換を行えるかは不明であるが、運営を行う所長が健診全体の大まかな流れを事前にスタッフに周知させることが必要である。初日の健診開始前の時間は各部署で準備を行うため、流れを共有する時間の余裕はなく、所長が事前に、とりわけ受付担当の方には健診の流れを伝え、その内容を市や県のスタッフの方で共有して頂くことが現実的であろう。

昨年度に引き続き血圧測定、特定健診診察、採血をどの順番で進んでいいのかわからない方が多数みられた。案内の掲示に数字を書き込むことにより、順番に大きな混乱はおきなかったが、順路はあらかじめ矢印などで示しておく方がよいという意見が挙がった。来年度検討して頂きたい。

② 設備上の問題と対策

(耳鼻科のファイバー使用+胸部レントゲン+遠心分離機の使用) が重なるとブレーカーが飛ぶ危険がある事が H24 年度より判明している。耳鼻科のファイバーの使用と胸部レントゲンは部屋も隣同士なので耳鼻科健診の補助スタッフが確認しながら使用時間が重ならないように注意する必要がある。

H29 年度は遠心分離のタイミングは気にせず使用していたが、ブレーカーが落ちることは無かった。来年度以降も耳鼻科ファイバーと胸部レントゲンスタッフの声掛けで機器の使用が重ならないようにすれば問題は生じないと思われる。なお、今年度は小森医師により例年より更に細いファイバーをご持参頂いたため、より受信者に負担の少ない診療が可能となった。

内科のエコーであるが、診察時に時折、動きが停止してしまう場面がみられ、診察に支障をきたした。幸い大きな問題はなく、健診は終了したが、来年度以降は新規のエコーの購入が必要と考えられる。実際に心エコーを用いて診察下さる堀田医師からも、新しいエコーの購入が必要、エコーが壊れていれば健診は成り立たないのご意見を頂いた。ドップラーエコーは市立輪島病院に購入頂き、今年度から健診時に用いられた。今後は健診だけでなく、日常診療でも生かしていければと考える。

③ 特定健診・内科健診について

特定健診と内科健診を受ける方の内科健診用の記入欄に血圧の数値が書き込まれていないことがあった。受診者の診察ファイルに過去の用紙が挟まっていたことや、用紙に日付がなくどれが今年度のものか分からなかったことなどが混乱を招いたとの意見を頂いた。よって来年度以降は混乱を避けるために過去の問診票の整理が必要である。受付では昨年問診票を参考に問診しているとのことなので、健診前にファイルには前年度の問診票とカルテのみを残し、不必要なものは取り除いておく必要があると考えられる。また、今年度は特定健診の診察室と保健指導のスペースを休憩室の一部に設置した。特定健診は血圧測定を行う部屋と休憩室の一部で行われており、2つの場所が近いことからスムーズに行うことができるはずであったが、今年度は扉によって区切られていたために、そこでも順路に混乱が生じた。今後は順路をより明確にしていく必要がある。

特定健診は広報での再三の呼びかけにも関わらず、当日受診票も保険証も持ってこない方が数名いらっしゃった。しかし、数人程度であれば比較的混乱も少なく対応できていたので、今後も4月から毎月の広報で受診票と保険証の持参を徹底することが大切である。また、事前に申し込み者を把握することで、各島民の保険の種類も確認することが出来た。島民の中には、船員保険の方もおり、別紙の受診票が必要な方もいた。今後も7月中旬までには受診者リストを作成し、市と協力し事前に確認することが必要である。

④ プライバシーについて

今年度も昨年度に指摘のあったプライバシーの保護のための保護カーテンを使用して内科診察室の入り口に設置した。特定健診の診察での保護カーテンが不足しているとの指摘があり、急遽高川医師に簡易的に作って頂いた。今後もプライバシーの保護には務めるべきであり、写真をみて今年度の区切り方を来年度も参考にしていきたい。

⑤ 眼科について

2日目のみの診察であるため、例年時間に余裕がなく、あわただしく準備が行われた。昨年同様、事務室の他に保育室を眼圧測定に利用した。山本医師がきてから机などの配置を行ったので、より円滑に行うためには山本医師の到着前に、ある程度のセッティングをしておくことが必要である。その他、眼科診察に必要な物品についても、山本医師の指示のもと準備を行ったため、今後は到着前にある程度は準備ができるよう、澤田看護師の協力のもと、来年度にむけて眼科準備事項の申し送りを作成した。

⑥ 手指消毒・手袋の使用について

検便の検体を受け取る際に手袋がほしいという意見があった。今年度は途中から手袋を使用するようになったが、来年度以降はあらかじめ受付に設置しておくことが望ましい。また、手指消毒のゴージョーがすべての診察室に配置されていたわけではなかったため、感染防御の為に全ての部屋に設置するのが望ましいという意見を頂いた。感染防御は基本であり、来年度以降はしっかりと設置していただきたい。

8. まとめ

今年度で舢倉島総合診療は36回目となった。これまでこの総合診療が継続されてきたのは石川県、輪島市の協力があり、そして長年診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力頂いた関係各位の情熱、ご尽力によるものである。この健診に対する住民の期待と信頼は大変大きく、専門的な診療を受けられる総合診療は、舢倉島診療において根幹をなしていると言える。夏期舢倉島住民の人口構成を見ると、65歳以上が約半数、75歳以上の後期高齢者が約30%と高齢化社会となっており、この地域特有の職業による潜水に伴う風土病に加えて、生活習慣病、心疾患、動脈硬化性疾患の予防・早期発見が重要な位置を占めてきている。また特定健診、保健指導、大腸癌検診、前立腺癌検診に関しては、これからの島を支える若年者・中年者の健康保持・増進にアプローチできる良い機会であり、今後も継続することを切に願っている。住民のニーズを明確に見極め、医療や保健など各方面と連携をとりながら、今後も総合診療を行っていく事が舢倉診療所長に課せられた命題と考える。

9. 謝辞

今年度も無事に舢倉島夏期総合診療を行う事ができました。参加して頂いたスタッフの皆様、ご協力頂いた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。この総合診療を通して、島民が自らの健康を意識する契機となれば幸いです。所長自身も日常診療を省みるとても良い機会となりました。今後の診療に今回学んだ事を十分に生かしていく所存です。またスタッフの皆様とお会いでき、とても充実した2日間を過ごす事ができました。所長そして島民一同深く感謝を申し上げます。

今後とも舢倉島島民の健康増進のためお力添えを下さいますようお願い申し上げます。

舢倉診療所長 西川 諒

平成 29 年度診療スタッフ集合写真 (H29.8.6 出航前のニューへぐら前にて)

